

11月2日 ゲスト卓話



2017-2018 年度
地区ロータリー財団部門委員長
松村 繁 様
(浦和東ロータリークラブ)

1、ロータリー財団とは(ロータリー財団の始まり)

ロータリー財団の歴史

ロータリー財団は、1917年、アメリカジョージア州アトランタで開催された国際大会において、アーチ、C、クランフが「全世界的な規模で慈善、教育、その他社会奉仕の分野で、よりよきことをするために基金を作ろう」と提案したことに始まり1928年国際大会でロータリー財団と名づけられ、1931年に信託組織となり、1983年にアメリカ、イリノイ州法の法令のもとに、非営利財団法人となりました。

1、ロータリー財団の正式名称とは

「国際ロータリーのロータリー財団」

2、ロータリー財団の使命は

ロータリアンが健康状態を改善し、教育への支援を高め貧困を救済することを通じて、世界理解、親善、平和を達成できるようにすること。

2、ロータリー財団寄付の種類とシェアシステムについて

1、年次寄付 2、恒久基金 3、ポリオ・プラス寄付

1、年次寄付

年次寄付は、寄付の基礎であり、この寄付は使い道を指定することなく、寄付して3年後に、地区の年次寄付総額の50%がDDFとして地区財団活動資金に、残りの50%がWFとして、国際財団活動資金に分けられます。

a、2770地区の年次寄付目標額

クラブ会員一人当たり、年次寄付が200ドです。またこの額は、寄付総額目標を会員数で割ったものではなく、一人当たりの寄付目標金額です。

b、なぜ3年後なのか？

資金を運用して増やすため、そのために3年間運用して、その後にそれぞれに資金をシェア(分ける)されます。

2、恒久基金

恒久基金は、年次寄付とは違い、元金は使わず、投資して得られた収益だけが3年後にDDFとして50%WFとして50%に分けられます。

つまり、基本的に元金は増える一方で、減ることはありません。

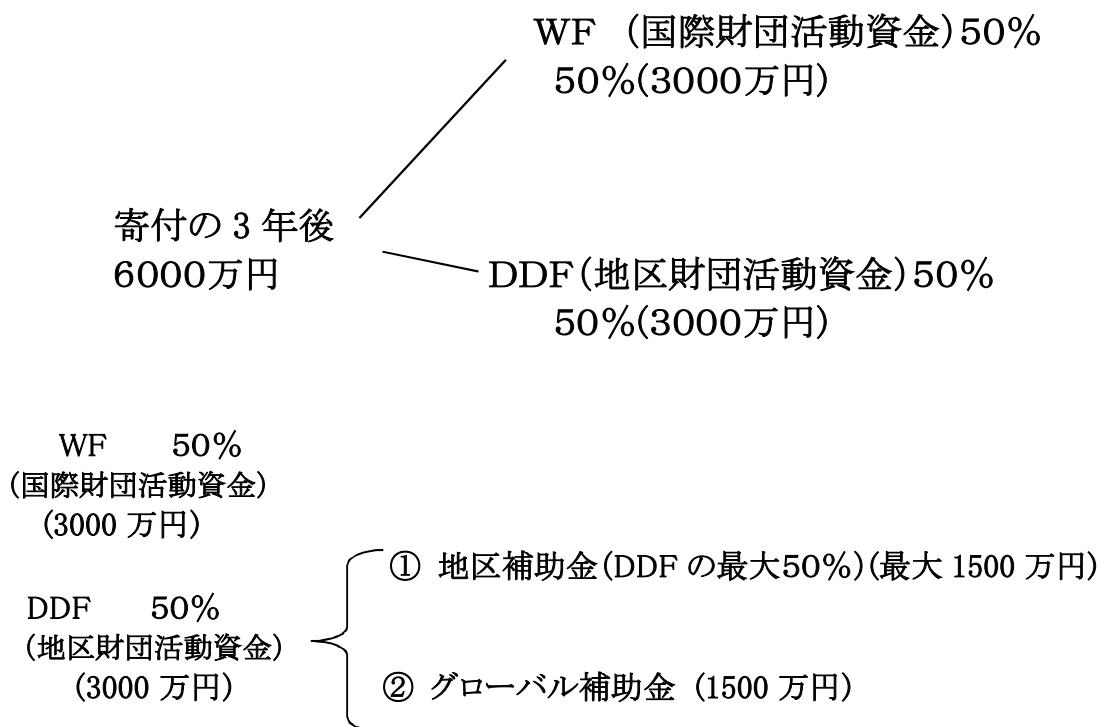
上記のことから、ロバート、バース元RI会長は、「年次寄付は、毎日庭に水を撒き、花々に水分を供給するようなもので、恒久基金はいつでも水がまけるように、十分な水を用意している貯水池のようなものです」と語りました。恒久基金の目標は、ベネファクター 1名(会員 50名以上のクラブは2名)ベネファクターの寄付は、1000ドルです。

3、ポリオ・プラス寄付

ポリオ(小児麻痺)を世界から撲滅するための寄付です。その他の目的には使われません。ポリオ常在国は、現在アフガニスタンとパキスタンとナイジェリアの3か国だけになりました。2770地区では、1人当たり50ドルがポリオ・プラスの寄付目標です。

シェアシステムについて

今年度の年次寄付が6,000万円、だった場合のシミュレーション



地区補助金……………DDFの最大50%まで使えます。

※ 地区補助金を50%以上にしてグローバル補助金を50%以下にすることはできませんが、グローバル補助金を50%以上にして、地区補助金を50%以下にすることは出来ます。

例 : DDFが3000万円だった場合、500万円を地区補助金、2500万円をグローバル補助金とすることは出来ます。

3、補助金を使うためには

ロータリー財団の補助金には、地区補助金とグローバル補助金があります。

地区補助金

概要

地区補助金は、比較的小規模で、短期間のプロジェクトを支援する補助金です。そのため、補助金の額は少ないのですが、使用条件に多くの制約がないので、使いやすい補助金でもあります。また国内でも海外でも使えます、そしてプロジェクトを実施する国にロータリークラブが無くても使用できます。

使用例

30万円をかけ、クラブで公園に植樹をするプロジェクトを実施した。

上記の場合、今年度であれば約14万円が地区からの補助金として出るためクラブの負担は16万円でこの事業を行うことができます。

補助金を申請するにあたって、クラブが行うこと

- 1、3月頃に地区が行う、補助金管理セミナーに出席する
- 2、クラブ覚書(MOU)を提出する(原本を地区事務所に送る)
- 3、地区補助金使用計画申請書を専用メールに提出する

地区補助金申請から終了までの流れ

- 1、2月中旬頃地区が、補助金プロジェクト立案のお願いを皆様のクラブに呼び掛けます。
- 2、3月に地区が行う補助金管理セミナーに、クラブから会長が出席します。
- 3、4月30日までに、地区補助金使用計画申請書を地区の財団専用メールに送り、覚書(MOU)は、次年度会長と次次年度会長がサインをして、原本を地区事務所に送ります。
- 4、クラブからの申請を地区の委員会で審査し速やかに財団に一括申請します。
- 5、7月下旬 TRF(国際ロータリーのロータリー財団)より承認の連絡があります。

- 6、8月中旬 TRF(国際ロータリーのロータリー財団)より地区に一括で補助金が振り込まれます。
- 7、8月下旬頃、地区はクラブの補助金専用口座に補助金を振込みます。
- 8、クラブは、8月から3月頃までにプロジェクトを終了させます。
- 9、クラブは、プロジェクトが終了後速やかに、地区に終了報告を行います。
終了後の提出書類は、1,最終報告書2,写真3,領収書4,通帳の写しです。
提出物は、すべて地区の財団専用メールに送ります。
- 10、地区は TRF に地区全体の最終報告書を提出します。

グローバル補助金

概要

グローバル補助金は、地区補助金に比べて、比較的規模が大きい補助金です。この補助金は、基本的に国外のロータリークラブが存在する国で使える補助金です。地区補助金に比べて補助金として受け取る金額が大きい(3万ドル以上)ののですが、手続きや使用条件が難しいという側面があります。

グローバル補助金の使用例

発展途上国で、綺麗な水が飲めない人たちの為に、井戸を掘ったり、浄水器を設置したりするプロジェクトが考えられます。

プロジェクトの立ち上げ方法

- ・姉妹クラブ等で海外のクラブとお付き合いのあるクラブは、海外のクラブから情報を得て、グローバル補助金ができるような需要がないか探しましょう。
- ・地区の国際部門に相談して、プロジェクトを探す方法もあります。
- ・マイロータリーで、海外のグローバル補助金情報を探してみましょう。
- ・地区のガバナーやパストガバナーに相談して、海外の情報を得る方法もあります。

考えたプロジェクトが、グローバル補助金に適しているかの確認

- 1、計画のプロジェクトが6つの重点分野を支援するものであることを確認。
①平和と紛争予防／紛争解決 ②疾病予防と治療 ③水と衛生 ④母子の健康 ⑤基本的教育と識字率向上 ⑥経済と地域社会の発展

- 2、地元社会に強いニーズと事業を推進する確固たる組織があること。
- 3、持続可能性のあるプロジェクト(補助金の支出が終わった後でもプロジェクトの成果が持続するもの)であること。
- 4、最低3万ドル(例:DDF1.5 万ドル+WF1.5 万ドル)のプロジェクトであること。
- 5、地元の人達と、一緒になってプロジェクトの立案から取り組む。

4、グローバル補助金を使ったプロジェクト例

グローバル補助金を使って行う、水と衛生プロジェクトのモデルケース
 2770地区のクラブが援助国、タイの3350地区のクラブが実施国となって、グローバル補助金を使用したプロジェクトを行うとします。

プロジェクトの内容

未だ上下水道が完全には整備されていないタイの山間部において、安全な水の確保を望んでいる地域に、地元地域の人達とロータリアンが、計画段階から協力して井戸を作り、安全な水が確保出来るようにします。その後地域の公共団体に井戸の管理を行っていただき、また、衛生的な水の維持、管理、開発が出来るような指導を地域の人達に対して行い、このプロジェクトには、5万ドルを使用します。

プロジェクトの予算

以下のように、2770地区のDDF(地区財団活動資金)から 15,000 ドルを使うことによって、WF(国際財団活動資金)から同額の 15,000ドルが支給されます。また3350地区のDDFから 7,000ドル使う事によってWFから同額の 7,000ドルが支給されます。

現金に関しては、2770地区内のクラブが 3,000 ドル使うことによって、半額の 1,500ドル、3350地区のクラブが 1,000ドル使う事によってその半額の 500ドルがWFから支給され、全てを合計すると 50,000 万ドルとなります。

地区とクラブからの支出	WFからの支給
2770地区のDDFから15,000ドル	WFから15,000ドル
3350地区のDDFから 7,000ドル	WFから 7,000ドル
2770地区内クラブから 3,000ドル	WFから 1,500ドル
3350地区内クラブから 1,000ドル	WFから 500ドル
計 26,000ドル	計 24,000ドル

地区とクラブからの支出 26,000ドル+WFからの支給 24,000ドル
=50,000ドル

※ 水と衛生に関する分野で勉強している学生や、その分野で仕事に従事することを目指す専門職業人のための奨学金支援